

僧祐撰法苑雜緣原始集について

菅野龍清

僧祐の著作は『出三藏記集』によれば、梁代には八部存在しており、それらの著作は僧祐自身によって「法集総目錄」として一括されていたことが知られる。その内訳は『釈迦譜』五卷、『世界記』五卷、『出三藏記集』十卷、『薩婆多部相承伝（薩婆多部記）』五卷、『法苑雜緣原始集（法苑集）』十卷、『弘明集』十卷、『十誦律義記（十誦義記）』十卷、『法集雜記伝銘（法集雜記銘）』七卷とこれに付随する『雜碑記（雜記碑文）』一卷となる。このうち、現存する『釈迦譜』『出三藏記集』『弘明集』の三書であり、それ以外の三書については序文と目錄が伝えられているだけである。それぞれの撰述目的について僧祐は次のように述べている。すなわち『釈迦譜』は「覚応を顕明せんがため」であり、『世界記』は「六趣を区弁せんがため」であり、『出三藏記集』は「經の訳を訂正せんがため」であり、『薩婆多部相承伝』は「律本の尊崇せんがため」であるという。また『法苑雜緣原始集』については「福源を弥論せんがため」であり、『弘明集』について

ては「正化を護持せんがため」であり、『十誦律義記』については「（律義の）章条科目は竊（ひそか）に早習する所にして、毎に服佩思尋し、墜失有らんことを懼る」からであり、『法集雜記伝銘』と『雜碑記』については「覚道の忍土に流れ、正化の像運に隆んらんことを願う」からであるといっている。

さて今回は今日では失われてしまった僧祐の著作のうち、『法苑雜緣原始集』を取り上げ、その一部の復元と他の僧祐の著作との関係を考察し、さらにはこれら仏教類書の検討により、梁代における仏典流布状況について若干の考察を為すものとする。その目錄から判断すると『法苑雜緣原始集』は十二卷からなり、『釈迦譜』『經律異相』と同様にあまたの經律から記事を引く形で撰述された類書である。構成の次第は巻第一が仏宝集、巻第二・三が法宝集、巻第四・五が僧宝集、巻第六が經唄導師集、巻第七が龍華像会集、巻第八・九が雜図像集、巻第十が經藏正齋集、巻第十一が菩薩戒集、巻第十

二が止惡興善集、卷第十三・十四が大梁功德となる。しかし序文においては十卷となっており、目録と序文で調卷について僧祐自身の述べるところが異なるのは何故であろうか。内容については序文の中で「經唄導師の集、龍華聖像の會、菩薩藥戒の法、止惡興善の教」と僧祐自身も謳っているのので、目録へ後人が付加したとは思われない。そこで推測の域を出ないが、「区ざるに類別を以て凡て十卷となす」という記述から考えて、僧祐のいうところの「十卷」というのは十の類別という意味とも考えられる。

今回はこの内、仏宝集の内容について若干の考察を為したいと思う。これを取り上げる理由として、第一に目録に示される仏宝集中における記事の表題から、その半数以上の記事が『釈迦譜』にも見られて、その復元が容易であると考えられる点、第二に『釈迦譜』に同様の記事が見られる場合の多くに、『経律異相』にも同様の記事が見られること、このことから『釈迦譜』と『経律異相』の関係を類推できるという点、さらにこれは『法苑雜緣原始集』に限ったことではないが、第三として『釈迦譜』と『経律異相』といった類書に同様の記述がなされている場合、その出典を調べることにより、唐代以後と異なる梁代における經典流布状況解明の糸口が見えるのではないかと、という点、以上の理由が挙げられる。

①「優填王栴檀像波斯匿王紫金像記」、出典は「増一阿含」とされている。『釈迦譜』卷第三に同じく出典を「増一阿含」とする「優填王造釈迦栴檀像記」(T50, 66C)及び「波斯匿王造釈迦金像記」(T50, 66C-67A)が引かれている。また「経律異相」にも出典を「増一阿含経卷第十九」とする「優填王造牛頭栴檀像」(T53, 36C)及び「波斯匿王造金像」(S53, 36, A)が引用されている。ただし梁代に流布していた増一阿含経は現存のものとは調卷が異なることが、『三藏記集』所載の道安の経序によって知られる。当時の調卷は四十一巻、現存する増一阿含経は五十一巻である。現存の『増一阿含経』では卷第二十八 (T2, 706A)に該当する記述が見える。

②「迦蘭陀長者初造竹園精舍縁記」、出典は「過去現在因果経」とされている。確かに現存する『過去現在因果経』卷第四 (T3, 651 C-652A)には頻毘娑羅王による竹園僧伽藍の布施が説かれるが、同経には迦蘭陀長者は登場しない。ただし『釈迦譜』卷第三に「釈迦竹園精舍縁記」あり、ここに出典として「曇無德律」「中本起」「菩薩藏経」の三経が挙げられている。この三種の引用のうち「中本記」中に迦蘭陀長者の竹園布施が説かれる。この記述は現存する『中本起経』卷上〈153B〉に相当する。

③「須達長者初造髮爪塔記」、出典は「十誦律」とされて

いる。『釈迦譜』巻第三の「釈迦鬘爪塔縁記」(T50, 66B)と同じものであろうと考えられる。『釈迦譜』でも出典は「十誦律」とされている。『経律異相』では巻第六中の「須達起髮爪塔」(T53, 27C)が該当し、ここでは出典が「十誦律序」と示されている。これは一見すると同律巻第六十・六十一、すなわち「善誦毘尼序」を指すようであるが、そこには内容的に該当する箇所は見受けられない。正確には同律巻第五十六第十誦之一「比丘誦(善誦)」(T23, 41B-C)に該当する箇所がある。『経律異相』にある「十誦律序」とは「十誦律」の「第十誦の初め」という意味であらうか。

④「仏初留影在石室記」、出典は「観仏三昧経」とされている。これに該当するのは『釈迦譜』巻第三「釈迦留影在石室記」(T50, 67C-68A)と『経律異相』巻第十六「(六龍王石窟)仏影」(T53, 30B-C)であらう。両者の記述は殆ど同じである。出典は仏陀婆陀羅訳「観仏三昧経」巻第七「観四威儀品」(T15, 681A-C)である。この「観仏三昧経」も梁代と唐代以後では調巻が異なる。

⑤「切利天上初造髮衣鉢牙四塔記」、出典は「集経抄」とされている。『釈迦譜』巻第三「釈迦天上四塔縁記」(T50, 68B-C)と『経律異相』巻第六「(天上四塔)」(T53, 28)に同善じものであろう。両書に出典として示されている「集経抄」については不明である。この「集経抄」を巡って『釈迦譜』

と『経律異相』の間に興味深い問題がある。『釈迦譜』では「天上四塔」について記した後に「祐、経律を案ずるに、人中に四大塔有り……」として、僧祐自身の記述として「生処塔」「成道塔」「転法輪塔」「涅槃塔」について述べている。『経律異相』では先述の直後に「人中四塔」と新たに題名を付して記されており、内容的には『釈迦譜』の記述を幾分省略したものとなっている。注意すべきは『釈迦譜』においては僧祐自身の記述であり、あえて出典を記していないのに対して、『経律異相』ではこれを「天上四塔」と同様に「集経抄」とされていることである。『経律異相』には『釈迦譜』

からの引用もあり、これらの事実が『釈迦譜』の成立後に『経律異相』が編纂されたことを示唆するものであろうか。「人中四塔」に関しては『阿育王伝』巻第二(T50, 104C)にあるが、『阿育王経』には見られない。

⑥「天上龍宮初造舍利宝塔記」、出典は「菩薩処胎経」とされている。『釈迦譜』巻第四に出典を「菩薩処胎経」とする「釈迦天上龍宮舍利宝塔記」(T50, 75C-76A)があり、これと同内容であらうと考えられる。『経律異相』では巻第六「天人龍分舍利起塔」(T53, 4B-25A)に相当するのであろうが、『経律異相』では「菩薩処胎経」だけでなく、「十誦律」「阿育王経」等の記述も合わせて引用している。現存する『菩薩処胎経』では巻第七中「起塔品」(T12, 1057C-1058A)に該

当する。

⑦「龍宮初造仏髻塔記」、出典は「阿育王經」とされているが、現存の『阿育王經』には該当箇所が見あたらない。

『釈迦譜』巻第四に「阿育王經」を出典とする「釈迦龍宮仏髻塔記」(T53, 76A-B)があり、これと同内容であろうと考えられる。『経律異相』の記述については⑥を参照。

⑧「閻浮提初分舍利起十塔記」、出典は「十誦律」とされる。『釈迦譜』には該当する記述がない。『経律異相』の記述については⑥を参照のこと。『十誦律』六十卷（論毘尼上卷）(T23, 446B-447A)の記述に該当する。

この他に出典を「胎経（菩薩処胎経）」とする「初集大乘法藏縁記」は『出三藏記集』巻第一「菩薩処胎経出八藏記」と、また出典を「大智度論」とする「初集小乘三藏縁記」は『出三藏記集』巻第一「集三藏縁起」とそれぞれ同様のものであろう。

以上の考察によりまとめとして次のことが指摘できる。

『法苑雜緣原始集』の目録に示された記事のうち、『釈迦譜』に内容的に同様と考えられる記述が有る場合、出典も共通ということになれば、内容的にほぼ同一とみてよいものと考えられる。したがって仏宝集についてはある程度復元可能である。また『釈迦譜』と『経律異相』を含めた三者の内容に関

する比較対照によって知られることは、まず出典として示された經典について唐代以後と調卷が異なるものがあることと、さらに『阿育王經』については『法苑雜緣原始集』『釈迦譜』『経律異相』ともに引用するものの現存の『阿育王經』には該当する記事が見いだせないこと、このことから梁代に流布していたものと現存のものとは内容が異なるのではないかと、この二点である。特に後者の問題の解決には『釈迦譜』『経律異相』の全体にわたる更なる詳細な検討が必要とされる。この点については改めて考察したいと考えている。

（註省略）

〈キーワード〉 僧祐、法苑雜緣原始集、釈迦譜、経律異相

（立正大学非常勤講師）